

Minami Kyushu University Syllabus						
シラバス年度	2023年度	園講キャンパス		都城キャンパス		
科目名称	東洋庭園学特論Ⅱ			実務経験	○	Active・L ○
科目コード	642512	単位数	2単位	学位授与方針との関連	DP1	
教員氏名	関西 剛康					
授業概要	<p>東アジアにおいてある種、理想郷を表現した庭園文化は、中国大陸で発展して朝鮮半島へと広がり、そして日本へと伝来した。そのなかで、東アジアの各地域と各時代によって発展を続けて現在に至っている。授業では、東アジア圏（中国・韓国・日本）における庭園を取り上げ、その歴史や変遷から、その成立背景となる思想文化や社会状況の理解を深め、高度な専門的知識の修得を図る。</p> <p>教員は、技術士（総合技術監理部門、建設部門〔都市及び地方計画〕）や登録ランドスケープアーキテクト（RLA）等の有資格者であり、実務として造園コンサルタントの設計事務所で20年にわたって国内外の100件を超える都市公園や庭園プロジェクトに参画したキャリアを有する。また、教員は文化庁文化審議会専門委員、宮崎県美しい宮崎づくり推進有識者会議長、宮崎県景観まちづくりアドバイザー、宮崎市花のまちづくりコンクール審査委員長、宮崎グリーンインフラ研究会会長などの職務経験も豊富である。授業では、実際に計画設計したランドスケープや先進事例を紹介しながら行う。</p>					
関連する科目	本授業の履修と同時に造園計画特別演習、本授業の履修前に東洋庭園学特論Ⅰ、造園計画特論Ⅱ、東洋庭園学特論Ⅱを受講することが望ましい。					
授業の方法と進め方	<p>基本的に授業は、アクティブラーニング方式によって実施する。</p> <p>毎回の授業構成は以下のとおりである。</p> <p>1. 授業前半は、講義を行う【学術・知識のインプット】</p> <p>2. 授業後半は、グループ学習・ディスカッションや課題発表（問題解決学習・プレゼンテーション）等を行う【学術・知識の醸成とアウトプット】</p>					
授業計画	<p>第1回：序論（東洋庭園学特論Ⅱの概要説明とその心得について）</p> <p>第2回：Chapter-1 東アジア圏の庭園文化学の特徴（東アジア圏における庭園文化の流れについて学ぶ）</p> <p>第3回：Chapter-2 中国の庭園文化（周時代までの庭園文化について学ぶ）</p> <p>第4回：Chapter-2 中国の庭園文化（秦・漢時代の庭園文化について学ぶ）</p> <p>第5回：Chapter-2 中国の庭園文化（三国・南北朝時代の庭園文化について学ぶ）</p> <p>第6回：Chapter-3 朝鮮の庭園（古代朝鮮の庭園文化の概要について学ぶ）</p> <p>第7回：Chapter-3 朝鮮の庭園（百済の庭園文化について学ぶ）</p> <p>第8回：Chapter-3 朝鮮の庭園（新羅の庭園文化について学ぶ）</p> <p>第9回：Chapter-4 日本の庭園文化（古代日本の庭園文化への影響について学ぶ）</p> <p>第10回：Chapter-4 日本の庭園文化（中世日本の庭園文化への影響について学ぶ）</p> <p>第11回：Chapter-4 日本の庭園文化（近世日本の庭園文化への影響について学ぶ）</p> <p>第12回：Chapter-5 東アジア圏の庭園文化の形成背景-1（東アジア圏における庭園文化の黎明と発展について学ぶ）</p> <p>第13回：Chapter-5 東アジア圏の庭園文化の形成背景-2（東アジア圏における庭園文化の伝播と変遷について学ぶ）</p> <p>第14回：Chapter-5 東アジア圏の庭園文化の形成背景-3（東アジア圏における庭園文化の融合と背景について学ぶ）</p> <p>第15回：総括：東アジアの庭園文化の総括と纏め（東アジア圏のなかでの日本の庭園文化の特徴と位置づけについて学ぶ）</p>					
授業の達成目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>東アジアの庭園の基本概念・歴史性について理解する【基礎的知識の習得】</li> <li>東アジアの庭園の自然感・空間性の要素について把握する【基礎的知識の習得】</li> <li>東アジアの庭園の植物・石・水・建築物などの要素の役割とデザイン手法を学ぶ【基礎的知識の習得】</li> <li>東アジアの庭園の役割・用途・作庭意図・文化的背景などの諸問題について考える【基礎的知識の習得】</li> <li>東アジアの庭園に関連する文献や研究成果に触れ、批評的思考力を身につける【自己管理能力・生涯学習力】</li> </ol>					
授業時間外の学修	<p>〈予習〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>授業で配布する学術論文や資料等を授業前に精読すること。</li> <li>大学院の授業であるため、事前に参考となる研究資料を準備しておくこと。</li> <li>予習は1時間程度行うこと。</li> </ol> <p>〈復習〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>授業後にさらに理解を深めるために学術論文や資料等を再度精読すること。</li> <li>復習は1時間程度行うこと。</li> </ol>					
課題に対するフィードバック	レポートは評価後、返却期間をもうけて返却ならびに解説をします。	評価方法・基準		発表・研究した内容に関するレポート（100点）		
テキスト	テキストは使用しないが、その代わりに適宜プリント資料を配布する。					

参考書	1. 『ランドスケープ研究』日本造園学会 2. 『ランドスケープ研究作品集』日本造園学会 3. 『ランドスケープデザイン』マルモ出版 など
備考	造園計画研究室（関西研）における研究領域の概要は以下の通りである。まずは、SDGs（持続可能な開発目標）を基本に、自然環境が有する多様な機能を活用し、持続可能で魅力ある国土づくりを進める「グリーンインフラ」の視点に立ち、地域活性化や持続可能な都市経営を考えたランドスケープについて研究している。例えば、地域の課題解決型をテーマに、実際にフィールドワークによって現状の課題